

平成30年 消防概況

■火災

		平成29年	平成30年	増減
火災 件数	建物火災	14	9	-5
	林野火災	1	0	-1
	車両火災	3	1	-2
	その他	4	5	+1
	合計	22	15	-7
死傷 者数	死者	2	2	0
	負傷者	6	4	-2
損害額 (千円)		55,221	45,777	-9,444

▷火災の対策

住宅用火災警報器の設置を呼び掛けるほか、放火火災防止のための警戒巡視、不特定多数の方が利用する施設への立入検査や消防訓練の立ち会いなどを実施しています。

■救助

		平成29年	平成30年	増減
救助 件数	交通事故	17	15	-2
	その他	9	4	-5
	合計	26	19	-7
活動件数		15	12	-3
救助人員		15	14	-1

■救急

		平成29年	平成30年	増減
救急 件数	急病	1,526	1,658	+132
	一般負傷	459	467	+8
	交通事故	178	174	-4
	その他	383	418	+35
	合計	2,546	2,717	+171
搬送人員		2,397	2,617	+220
1日平均		6.98	7.44	+0.46

▷救急搬送の傾向

救急搬送された2,617人の約70%が65歳以上の高齢者でした。

▷救急車の適正利用を

救急搬送された2,617人の約30%が、軽症と診断されました。本当に救急車が必要な人の元へ1秒でも早く到着させることができるよう、ご協力をお願いします。

▷交通事故に注意を

市内には幹線道路が多く、高速道路のジャンクションもあります。多くの車両が往来し交通事故の危険があるため、注意しましょう。

3月1日(金)～7日(木)は春の全国火災予防運動

『忘れてない？ サーフにスマホに 火の確認』 (平成30年度全国統一防火標語)

住宅防火 命を守る7つのポイント — 3つの習慣・4つの対策 —

3つの習慣

- ▷寝たばこは絶対しない。
- ▷ストーブは燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ▷ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

- ▷逃げ遅れを防ぐために住宅用火災警報器を設置する。
- ▷寝具、衣類およびカーテンへの延焼を防ぐため、防災品を使用する。
- ▷火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置する。
- ▷お年寄りや体の不自由な人を守るために、近所の協力体制をつくる。

屋外での火災にご注意ください

火災は、空気が乾燥し強風が吹く春先に多く発生します。この時期に火災が起きると、周囲に燃え広がる可能性が高く大変危険です。

屋外での火の取り扱いには十分注意しましょう。

【屋外での火災防止のための注意点】

- ▷燃えやすい枯れ草などのある場所でのたき火は絶対にやめましょう。
- ▷強風・乾燥時には、たき火など屋外で火を取り扱うことは絶対にやめましょう。
- ▷たき火など、火から離れるときは完全に消火しましょう。
- ▷たばこの吸い殻は必ず消しましょう。また、投げ捨ては絶対にやめましょう。

問 消防本部 (☎543119)